

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
令和6年度文化財担当者研修予定表

R6.11.7

課程名	副題	定員	日程	内容	備考
文化的景観調査計画課程	地域にのこる既指定・未指定の文化遺産とそれらの関係性を文化的景観として総合的に捉え、調査、保存活用するための基礎課程	10名	R6.6.5 水 ~ R6.6.7 金	文化的景観の保護制度、地域の文化遺産を総合的に理解するための調査手法、それらを保存活用するための計画立案等についての基礎を習得することを目的とする。弱体化する地域社会の中で、行政や住民自身が地域の生活・生業の仕方やその環境に潜む歴史文化の豊かさと魅力に気づき、それらを自然基盤を含めた背景から読み取っていくための方法、また、それらのストーリーを活かした地域づくりや観光振興を支援すること等に関心を持つすべての方を対象とする。	
文化財石垣保存整備(講義)課程	城跡等の石垣の保存活用に関する基礎的研修の講義	50名	R6.6.12 水 ~ R6.6.14 金	近年の大規模地震等による城跡等の石垣の被災・復旧を踏まえ、文化財石垣の保存活用に必要な専門的知識や管理活用事例などについて、地方公共団体の担当者としての基礎的な知識の習得を目指す研修をおこない、各地域の中核として文化財保護活動をおこなう者を育成するとともに、本研修を受講した者が、研修内容を踏まえた研修会の講師として活動することや指導・助言等をおこなうことを目的とする。オンラインによる講義で実施する。	協力:石川県金沢城調査研究所
文化財石垣保存整備(実習)課程	城跡等の石垣の保存活用に関する基礎的研修の実習	10名	R6.6.17 月 ~ R6.6.18 火	近年の大規模地震等による城跡等の石垣の被災・復旧を踏まえ、文化財石垣の保存活用に必要な専門的知識や管理活用事例などについて、地方公共団体の担当者としての基礎的な知識の習得を目指す研修をおこない、各地域の中核として文化財保護活動をおこなう者を育成するとともに、本研修を受講した者が、研修内容を踏まえた研修会の講師として活動することや指導・助言等をおこなうことを目的とする。文化財石垣保存整備(講義)課程を受講した者を対象に実習を実施する。	協力:石川県金沢城調査研究所 開催地:金沢市
文化財デジタルアーカイブ課程	データベース・文化財情報のデジタル化・公開利活用	15名	R6.7.22 月 ~ R6.7.26 金	デジタル技術を用いて、調査記録類(画像含む)および報告書のデジタル化や文化財コンテンツの公開活用を行うための必要な知識やスキルを習得するための研修。コンテンツのデータベース公開、オープンデータ化、著作権などの知的財産権も扱う。対面に加えオンラインも同時開講する。	
自然科学分析外注課程	発掘現場で自然科学分析を適切に実施するために	15名	R6.9.25 水 ~ R6.9.27 金	動植物遺体や年代測定などの自然科学分析を外注する際に必要な基礎知識の習得や留意点の理解を目指す研修	
遺跡調査技術課程	現場で実践できる実戦的調査基礎技術	20名	R6.9.30 月 ~ R6.10.4 金	発掘調査現場や調査成果の活用に役立つ、実践的な知識と技術の習得、多分野協業に求められる視点について実習を交えながら学ぶ。 具体的には直営で必要となる地質調査や探査・計測、遺存体を含めた土壌の調査法を学び、対してどのような分析を、どのような形で委託すべきか、その際に必要な知識や判断基準は何か、加えて委託分析に向けた試料採取法について学ぶ。	
石造物調査課程	地域資源としての石造物の保存活用を視野に入れた、古代中世採石加工技術にかんする実践的研修	15名	R6.10.15 火 ~ R6.10.18 金	発掘調査や野外調査で実践可能な、古代中世石造物にかんする基礎知識・観察記録技術と石材鑑定、保存科学的な基礎知識を習得することを目的とする。また、地域資源としての石造物の保存と活用についても理解を深めようとするものである。	
保存科学(木製遺物)課程	出土後の応急処置から保存処理、展示・保管まで	10名	R6.10.21 月 ~ R6.10.29 火	出土木製遺物の保存に必要な基礎的な知識と技術の習得を目的とした課程。 木製遺物の保存処理法を中心に、発掘現場における応急処置から一時保管、保存処理後の展示・保管環境にいたるまで、一連の流れに沿った講義と実習をおこなう。 研修を通して、受講生自身で遺物の保存処理を実践可能となること、また処理の外注に際しても適切な仕様の策定が可能となることを目標とする。	
文化財写真課程	文化財各分野の写真記録に必要な基礎知識とデジタル写真を中心とした実習	15名	R6.11.18 月 ~ R6.11.29 金	文化財の記録保存と活用において中心的な役割を持つ写真記録について必要不可欠な写真技術の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習を通じて実技を習得する研修。	3課程は連続して実施
報告書編集基礎課程	報告書を刊行するための基礎知識を学ぶ研修	20名	R6.12.2 月 ~ R6.12.6 金	文化財調査記録に必要な不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得する研修。	3課程は連続して実施
報告書デジタル作成課程	報告書作成でデジタル技術を活用する研修	15名	R6.12.9 月 ~ R6.12.13 金	報告書出版に必要な編集知識や図版制作について、デジタル技術を活用しながら出版物作成をおこなう実践的な技術を習得する研修。	3課程は連続して実施
データベース活用課程	発掘調査に有効なデータ群の利用方法やそのデータベース化を学ぶ	15名	R7.2.25 火 ~ R7.2.28 金	多分野から共有されるデータ資源を、発掘調査でどのように活用し得るか、発掘調査成果をどのように他分野へ情動的郷出来得るか、外の分野からの視点を交えて習得する。	奈良文化財研究所で実施
文化財三次元計測課程	フォトグラメトリを用いた文化財の記録-入門編-	12名	R7.1.21 火 ~ R7.1.24 金	文化財のフォトグラメトリに関する基礎知識と実技を習得する。また三次元計測関連の課題解決に向けた方法を検討する。	奈良文化財研究所で実施

※1 研修参加決定通知は研修開始日の約1ヶ月前に通知の予定です。

※2 文化財写真課程・報告書編集基礎課程・報告書デジタル作成課程は、続けて受講することができます。

※3 最新情報はウェブサイトで随時お知らせいたします。